

Young Entrepreneurs Group of  
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

# YEG FUKUI



vol. **93**

発行日/平成12年3月22日発行

発行所/福井商工会議所青年部

福井市西木田2-8-1

TEL: 0776-36-8111

FAX: 0776-36-6588

発行者/森永克彦

編集者/江守康利

福居

福井商工会議所 青年部会報



## CONTENTS

- **ご卒業おめでとう** ..... 2  
後輩からの送ることば
- **創立25周年記念式典** ..... 6  
「若手経済人フォーラム」盛会
- **第1回「ふくい市民会議」開催** ..... 7  
JCとの共催
- **会員訪問 おじゃまします No.3** ..... 4  
多田 和博さん・橋 敏夫さん

# ご卒業

## おめでとうございます

本年は、5名の方がご卒業されます。みなさん青年部では大いに活躍され、まだまだご指導いただきたい事ばかりで、ご卒業されるのが惜しい方々です。

後輩からの、感謝の気持ちを込めた“送ることば”をさしあげます。



### 五十嵐 清さんへ

あなたは、お洒落なかたでした。  
あなたは、ユニークなかたでした。  
あなたは、意外に女性が好きなかたでした。  
あなたは、口よりも身体が先に動くかたでした。  
あなたは、人が言いにくいことを代わりに言ってくれるかたでした。  
あなたは、なんでも参加する積極的なかたでした。  
あなたは、人と分け隔てなく接するかたでした。  
あなたは、故郷福井と青年部を愛していました。

こんなあなたが、こんなに早く逝ってしまうなんて……失礼、卒業してしまうなんて。

さびしくなりますが、あじさい会との交流会で又、お会いしましょう。

加藤 了嗣

### 江守 康利さんへ

江守康利さんは、昭和61年6月に青年部に入会され、モットーは「誠意」と言われるように、約14年間広報・メディア委員会関係でご活躍されてきました。

特に平成9年には青年部ホームページを制作・公開され、以後維持管理にも努力されました。大変充実した内容になり、青年部の対外的な部分を担って来ました。

また、イベントでは写真撮影を担当され、会報「福居」も編集され、平成10年度には商青連広報誌コンクールで優秀賞を頂いたのも、江守さんの活躍抜きにしては語られません。

今年最後の年には、25周年記念誌、そして、今まで無かった、青年部の“歴代会員情報誌”も手がけられ、青年部にとっては大変貴重な存在でした。

個人的には、パソコン、スキーなどを教えていただき、よき先輩でした。

今後の更なるご活躍をお祈りしております。

金木 正隆



### 小川 睦夫さんへ

小川さんは、平成2年のご入会で私の一年先輩となります。

そもそも当青年部の初代会長を務められた三谷宏治三谷商工会長の直々のご推薦ということで、周囲の大きな期待のなかご入会されたと聞いておりますが、その期待に違わず約10年間ご活躍いただいた方です。

私とは例会研修委員会などで何度か一緒だったのですが、いつもニコニコとして人をほっとさせてくれる雰囲気と、時に大局的な視点でのご指摘で、何度も助けられました。

その後は主に地域活性化委員会に所属され、会議所が新築移転した年のハートランドイベントで「子供フォーラム」のために走り回っていた姿が思い出されます。また青年部活動だけでなく、翔生ゴルフクラブにも熱心に参加され、一時期は多くの賞品を持って帰られました。

ご卒業は大変残念ですが、これからもあじさい会やゴルフ等を通じて青年部とのお付き合いをよろしく願います。

竹内 幹男

### 佐々木 清史さんへ

佐々木清史さんご卒業おめでとうございます。

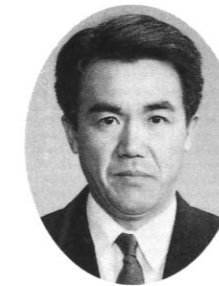
思い起こせば私が青年部に入会した最初の例会は、フクビ化学様への企業訪問で、右も左もわからないとき親しげに声をかけていただいたのが佐々木さんでしたよね。その後も何かと声をかけていただき、まだ最初の友達もいない、何をすればいいのかもわからない時期、とても助かったのを思い起こしております。

私が入会の次の年には、佐々木さんが広報委員長、私が副委員長となり「できるかな」と思いつつ、活動できたのも佐々木さんのおかげです。

佐々木さんと知り合って11年。私が青年部を続けてこられたのも、あの笑顔と包容力の大ききでみんなを包んでくれたからだと思います。佐々木さんがおられたから青年部で活躍できたと思っている方もたくさんいらっしゃるかと確信しております。

やせているけど、大きなパワーを持っている佐々木先輩、本当にありがとうございました。

真木 康至



### 佐山 茂さんへ

初めて佐山さんにお会いしたのは3年前の青年部海外研修「タイ編」の時でしたね。

単なる参加者ということではなく、良きアドバイザーとして参加されていたように記憶しています。後日、海外交流(研修)に佐山さんは欠かせない存在だと聞き、なるほどと感心したものです。

そして、2回目にお会いしたのは、先頃行われた同じく海外研修「韓国編」。改めて海外研修の「佐山」を実感しました。この時、言われていた「テリトリーは地球」のひとつと共に、「行くなら必ず土日を挟む」「海外へ行った形跡を残さないで帰宅する」とさすが、なによりも海外での交流を優先させる点は見事と言わざるを得ません。

青年部では『海外研修とゴルフのみだった』佐山さん、卒業後も海外&ゴルフの時には、きっとお会いできる。全会員がそう信じていることをお忘れなく。

(25周年式典の時も参加されていました…ゴメンナサイ) 藤澤 克美

# おじゃまします

— あなたのこと教えて —

## 多田 和博 さん (株)米五 伝統ある老舗の味噌屋がインターネットでも花開く



●まず(株)米五さんの簡単なプロフィールを。  
創業は天保2年。永平寺御用達の味噌屋で、現在従業員は10名ほどです。事務所の裏に工場があり、週のうち二日は社員全員で仕込み作業を行います。

●多田さんが味噌のお仕事を継がれる前は。  
大学は電気工学科で、今でいう情報分野を勉強しました。卒業後はNECに就職し、ソフトウェア技術者として主に通信分野を担当しました。

福井に戻ったのは1991年の春で、それから味噌の勉強を始めました。営業的には、定期的にDMを出すことから始めたのですが、顧客の年齢層は50から60歳台あたりが中心で先行きに大変危機感を覚えました。

●パソコンを使い始めたのは早かったのですか。

いえ、NEC時代は汎用機ばかりでしたのでパソコンのことは全く素人でした。しかしパソコン通信や後のインターネットについては、当初から何か商売に利用できないものかと思ってましたね。ですからパソコン通信でオンラインショップを開く時も、既に味噌屋が一軒開いていたNiftyを避けて、IBMのPeopleを選びました。

●オンラインショップは順調に始まったのですか。

96年初年から始めたのですが、最初は月商5千円でしたね(笑)。それも月6万円の出店料を出して。その後、98年にインターネットに完全移行したのですが、その頃でも月2万円程度でした。当時は自分でもこんなものかなという気持ちでした。

●それが、最近では?

現在は月80万円近くの売上に成長しています。きっかけは、県の産業情報センターで聞いた大阪の傘屋さん(「心斎橋みや竹」の宮武 和広氏)の講演でした。傘で月200万円もあるなら、味噌でもできそうに思えました。また同業者の集まり等で調べても、そんなに「やる気」のある会社はなさそうでしたので「これならいける」と本格的に取り組み始めたわけです。

●具体的にはどのように。

まずホームページのデザインをプロの助言でシンプルに

## 【会員訪問】 No. 3

例会などでは、お互い顔を合わせるが、どんな仕事をしているのかよく知らなかったり、意外に共通の趣味を持つ人がいたりします。

そういう、会員の知られていない一面を、勤務先やご家庭におじゃまして楽しくご紹介します。

一新しました。もちろん、こまめに更新したり、ネット経由での懸賞(抽選で商品があたる)を行ったりしてきました。

またホームページだけでは受身ですので、メールマガジン(複数の人に同時にメールを送る仕組み)を活用しての、味噌関連情報の発信などにも力をいれています。メールを送る人は今全体で5,000人くらいになってます。顧客の年齢層も若く30歳台が中心ですね。

また販売情報だけでなく、味噌料理のレシピのページも開設しています。掲載写真を撮るのに家内の協力でうちで作っている次第です。

●今後についてお聞かせください。

サイトの規模は、現在300ページ以上ですが、まだまだ専属の人を配置するほどではありませんね。またメールでのやり取りは、私以外の人ではまだ務まらない部分も多いですし、当分YEG活動する余裕はなさそうです。(笑)

私の目標としては、インターネットを通じた日本の味噌の売り上げのうち1/3を我が社で扱いたいと考えています。

●最近のトピックスなどお聞かせください。

極上品として「極(きわみ)」という味噌を発売しています。これは北海道産有機栽培の大豆と奥越のコシヒカリを組み合わせたもので、材料費は一般の7倍かかっている商品です。事前に注文を受けた分しか仕込まない「完全限定品」です。寒の時期にはこれの仕込みに忙しいです。

また最近では味噌の手作りセットを販売しているのですが案外若い人から引き合いがきています。

\* \* \* \* \*

現在米五さんは福井のe-ビジネス最前線企業ですが、メールでの1対1のお客様との繋がりや、提供情報の充実化という「手間のかかる」お仕事を地道に積み重ねていらっやいます。手法や手段が変わっても「商い」の基本は変わらないということでしょうか。

アドレスは、<http://www.misoya.com/>です。皆さん是非一度アクセスしてみてください。(竹)



## 小川 睦夫 さんへ

小川さんは、平成2年のご入会で私の一年先輩となります。

そもそも当青年部の初代会長を務められた三谷宏治三谷商事会長の直々のご推薦ということで、周囲の大きな期待のなかご入会されたと聞いておりますが、その期待に違わず約10年間ご活躍いただいた方です。

私とは例会研修委員会などで何度か一緒だったのですが、いつもニコニコとして人をほっとさせてくれる雰囲気と、時に大局的な視点でのご指摘で、何度も助けられました。

その後は主に地域活性化委員会に所属され、会議所が新築移転した年のハートランドイベントで「子供フォーラム」のために走り回っていた姿が思い出されます。また青年部活動だけでなく、翔生ゴルフクラブにも熱心に参加され、一時期は多くの賞品を持って帰られました。

ご卒業は大変残念ですが、これからもあじさい会やゴルフ等を通じて青年部とのお付き合いをよろしく願います。 竹内 幹男

## 佐々木 清史 さんへ

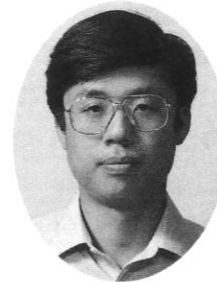
佐々木清史さんご卒業おめでとうございます。

思い起こせば私が青年部に入会した最初の例会は、フクビ化学様への企業訪問で、右も左もわからないとき親しげに声をかけていただいたのが佐々木さんでしたよね。その後も何かと声をかけていただき、まだ最初の友達もない、何をすればいいのかわからない時期、とても助かったのを思い起こしております。

私が入会の次の年には、佐々木さんが広報委員長、私が副委員長となり「できるかな」と思いつつ、活動できたのも佐々木さんのおかげです。

佐々木さんと知り合って11年。私が青年部を続けてこられたのも、あの笑顔と包容力の大きさとでみんなを包んでくれたからだと思います。佐々木さんがおられたから青年部で活躍できたと思っている方もたくさんいらっしゃるかと確信しております。

やせているけど、大きなパワーを持っている佐々木先輩、本当にありがとうございました。 真木 康至



## 佐山 茂 さんへ

初めて佐山さんにお会いしたのは3年前の青年部海外研修「タイ編」の時でしたね。

単なる参加者ということではなく、良きアドバイザーとして参加されていたように記憶しています。後日、海外交流(研修)に佐山さんは欠かせない存在だと聞き、なるほどと感心したものです。

そして、2回目にお会いしたのは、先頃行われた同じく海外研修「韓国編」。改めて海外研修の「佐山」を実感しました。この時、言われていた「テリトリーは地球」のひとつことと共に、「行くなら必ず土日を挟む」「海外へ行った形跡を残さないで帰宅する」さすが、なによりも海外での交流を優先させる点は見事と言わざるを得ません。

青年部では「海外研修とゴルフのみだった」佐山さん、卒業後も海外&ゴルフの時には、きっとお会いできる。全会員がそう信じていることをお忘れなく。

(25周年式典の時も参加されていました…ゴメンナサイ) 藤澤 克美

# おじゃまします

— あなたのこと教えて —

## 多田 和博さん (株)米五 伝統ある老舗の味噌屋がインターネットでも花開く



●まず(株)米五さんの簡単なプロフィールを。  
創業は天保2年。永平寺御用達の味噌屋で、現在従業員は10名ほどです。事務所の裏に工場があり、週のうち二日は社員全員で仕込み作業を行います。

●多田さんが味噌のお仕事を継がれる前は。  
大学は電気工学科で、今でいう情報分野を勉強しました。卒業後はNECに就職し、ソフトウェア技術者として主に通信分野を担当しました。

福井に戻ったのは1991年の春で、それから味噌の勉強を始めました。営業的には、定期的にDMを出すことから始めたのですが、顧客の年齢層は50から60歳台あたりが中心で先行きに大変危機感を覚えました。

●パソコンを使い始めたのは早かったのですか。

いえ、NEC時代は汎用機ばかりでしたのでパソコンのことは全く素人でした。しかしパソコン通信や後のインターネットについては、当初から何か商売に利用できないものかと思ってましたね。ですからパソコン通信でオンラインショップを開く時も、既に味噌屋が一軒開いていたNiftyを避けて、IBMのPeopleを選びました。

●オンラインショップは順調に始まったのですか。

96年初から始めたのですが、最初は月商5千円でしたね(笑)。それも月6万円の出店料を出して。その後、98年にインターネットに完全移行したのですが、その頃でも月2万円程度でした。当時は自分でもこんなものかなという気持ちでした。

●それが、最近では?

現在は月80万円近くの売上に成長しています。きっかけは、県の産業情報センターで聞いた大阪の傘屋さん(「心斎橋みや竹」の宮武 和広氏)の講演でした。傘で月200万円もあるなら、味噌でもできそうに思えました。また同業者の集まり等で調べても、そんなに「やる気」のある会社はなさそうだったので「これならいける」と本格的に取り組み始めたわけです。

●具体的にはどのように。

まずホームページのデザインをプロの助言でシンプルに

## 【会員訪問】 No. 3

例会などでは、お互い顔を合わせるが、どんな仕事をしているのかよく知らなかったり、意外に共通の趣味を持つ人がいたりします。

そういう、会員の知られていない一面を、勤務先やご家庭におじゃまして楽しくご紹介します。

一新しました。もちろん、こまめに更新したり、ネット経由での懸賞(抽選で商品があたる)を行ったりしてきました。

またホームページだけでは受身ですので、メールマガジン(複数の人に同時にメールを送る仕組み)を活用しての、味噌関連情報の発信などにも力をいれています。メールを送る人は今全体で5,000人くらいになってます。顧客の年齢層も若く30歳台が中心ですね。

また販売情報だけでなく、味噌料理のレシピのページも開設しています。掲載写真を撮るのに家内の協力のうちで作っている次第です。

●今後についてお聞かせください。

サイトの規模は、現在300ページ以上ですが、まだまだ専属の人を配置するほどではありませんね。またメールでのやり取りは、私以外の人ではまだ務まらない部分も多いですし、当分YEG活動する余裕はなさそうです。(笑)

私の目標としては、インターネットを通じた日本の味噌の売り上げのうち1/3を我が社で扱いたいと考えています。

●最近のトピックスなどお聞かせください。

極上品として「極(きわみ)」という味噌を発売しています。これは北海道産有機栽培の大豆と奥越のコシヒカリを組み合わせたもので、材料費は一般の7倍かかっている商品です。事前に注文を受けた分しか仕込まない「完全限定品」です。寒の時期にはこれの仕込みに忙しいです。

また最近では味噌の手作りセットを販売しているのですが案外若い人から引き合いがきています。

\* \* \* \* \*

現在米五さんは福井のe-ビジネス最前線企業ですが、メールでの1対1のお客様との繋がりや、提供情報の充実化という「手間のかかる」お仕事を地道に積み重ねていらっしゃいます。手法や手段が変わっても「商い」の基本は変わらないということでしょうか。

アドレスは、<http://www.misoya.com/>です。皆さん是非一度アクセスしてみてください。(竹)

## 橋 敏夫さん 橋社会保険労務士事務所

“アウトドアの達人”の原点は放浪の釣人だった。

●社会保険労務士とはどういうお仕事ですか。

厚生省(社会保険事務所系)と労働省(労働基準監督署系)のふたつの省が所管するという珍しい資格です。法律上は、1号業務(保険業務の代行)、2号業務(相談/指導)3号業務(人事全般コンサルタント)という区分があります。要するに「会社で人を使うことに関する全てのこと」というのが基本です。その他、最近ではISO9000の取得支援なども手掛けています。

●これまでの経歴など簡単にお聞かせ願えますか。

資格をとって独立したのは約10年前です。その前は信用金庫で保険関係の仕事をしていました。

その前は、福井に戻る前で、東京新宿にある釣具のプロショップで働いていました。(一同、エーっ!)

●これはいきなり面白くなってきました。

そのあたりのことについてもう少し詳しく。

いや、要するにそれまでの趣味が嵩じて本職になったわけです。大学卒業後、就職もせずに奥只見湖あたりで釣りしてたんですが(またまた、エーっ!)、ある時、その釣具店の社長と出会い、誘われたのがきっかけでした。

20年以上前ですが、日本でのルアーやフライフィッシングの先駆的なショップでした。当時交流のあった人の中には、今やその分野では超有名人となった人も多くいます。私自身も頼まれて雑誌に記事を書いたこともあります。

●基本的な質問ですが、釣りの体系のようなものとか、ルアーとフライの違い等は。

うーん、「釣り」とは一言でいえば、竿の片方に餌がついていてもう片方に馬鹿がついているものです。(爆笑)

ルアーとフライは両方ともいわゆる疑似餌ですが、ルアーは魚に似せたもので、プラスチックや金属、木などを素材として、主に肉食の魚を狙うためのものです。冬の九頭竜川でサクラマス釣りで使うものもこれです。そ

れに対してフライとは、直訳すると蠅のことで、鳥の羽根や動物の毛などを素材にして虫に似せて作ります。

●危ない目にも遭われたのでしょうか。

そういえば、半身を水に浸かって釣りをしていた時にうっかり足を滑らせてしまい、水中にあった土管に吸

い込まれたことがありました。幸いそのまま反対側から出ることができましたが、もし土管の中に木の枝でもあったら、溺れ死んでいたと思います。今でも思い出すと冷や汗が出ますね。

●最近の活動はどうなんですか。

独立してからは勤めていた頃より逆に回数が減ってしまいました。場所も近いところがほとんどで。でも溪流だけでな

く子供達のために海釣りへ行ったりもします。妻も竿は持ってますし。私から誘わなくても子供の方から連れてってこれと言われることも多いです。

●青年部の夏のキャンプの時など、何か作られたりしてますが、料理がお好きなんですか。

今夏作ったのはスペアリブをコーラで煮込んで、そばつゆ等で適当に味をまとめただけのものですよ。作るの好きですが結構適当です。

家でも割り料理はします。ちょっと夜遅く帰ると私の分の食事は全くなくなっていて、帰ってから自分で作ることが良くあります。苦にならないというか楽しんでます。息子なんかも休みの日に何か作ってたりしますね。

\* \* \* \* \*

最近のオートキャンパーあたりとはどこか違うと思っていたのですが、「アウトドアの達人」橋さんの原点は釣りだったのです。しかもその趣味のスタイルを通して、家族をうまくリードしていらっしゃる頼もしい父親像にも触れられたように思います。



# 創立25周年記念式典 盛大に挙行

記念事業「若手経済人フォーラム」には内外より350名参加

本年度で創立25周年を迎えた我が青年部は、2月19日(土) 創立25周年記念式典を行いました。

第1部の記念式典には、栗田幸雄福井県知事をはじめ青年部OB会員、県内各地青年部会員・関係団体から多くの方々にご臨席を頂きました。式典では、これまでの活動の歴史をスライドで上映し、先輩方の業績を振り返りました。県知事に続き酒井哲夫福井市長、市橋 保福井商工会議所会頭より祝辞をいただき、青年部歴代会長の紹介などがありました。



県知事・福井市長・会議所会頭のご臨席を得て行われた記念式典

第2部の記念事業として「第一回若手経済人フォーラム」を開催しました。まず馬場和明氏(プライベート

エクイティージャパン(株)代表取締役)より『今、若手経済人に何が必要か 真のベンチャーとは』と題する講演を頂きました。氏は、数々のベンチャー企業に関わってきた経験を元に、「これまで



の資産が負債に代わるほど時代は変化している。先ず行動を起こすことが大事。失敗しても、将来性のある事業には投資する時代が変わってきている。」と述べられ、ベンチャーらしい経営哲学を同えて大変興味深い内容でした。

次に、馬場氏、大戸天童(株)ベンチャーソフト代表取締役、江守清隆(江守商事(株)代表取締役社長)、小川修(中央食品(株)代表取締役社長)各氏の4名のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

大戸氏は現在取り組んでいるアニメビジネスの展開を披露し挑戦することの大切さを主張。江守氏は「福井の物づくりのパワーを市場に向けていかなければならない」と時代への対応を指摘。小川氏は「何が芽生えていくかを見極める力が重要」と指摘されました。

会場は一般も含め350名の聴衆で満員となり、各マスコミも取材に訪れるほど話題性のある会議になりました。

フォーラムの最後には「ミレニアム2000 福井青年経済人行動宣言」を吉岡正修副会長が宣言しました。

第3部の懇親会では、明新森組のYOSAKOIイッチョライ演舞で幕を開けました。パネラーとみなさんが熱く語り合っておられ、あちこちで名刺交換も見え、交流を深め合っていたようです。

この日、この会場から生まれた新たな発想や情熱が、福井活性化の起爆剤となることを祈っております。

総務委員会 副委員長 慶松 裕司



# まちづくりを共に考えよう

第1回「ふくい市民会議」をJCと共催

(H11.11月3日)

去る平成11年11月3日福井商工会議所地下コンベンションホールにおいて、「第1回ふくい市民会議」が開催されました。YEGでは昨年まで「市民の広場」を開催してきましたが、昨今、まちづくりのフォーラムが盛んとなり、単独の開催では参加者も少なく、市民や行政に対してもインパクトが弱いこと、また最近、まちづくり関連の事業が少ない福井青年会議所(JC)からの呼びかけに応えることで、より大きな力となることを鑑み、YEG設立以来初めての試みとして、JCとYEGが企画段階から共同でこの事業を行うことになりました。

2つの団体の各分野にわたってのシステムの違いから戸惑うことも多かったですが、JC佐藤弘之、FYEG前田 弘両委員長の熱意によって、まさに一体となった企画が出来たことは、まちづくりの成果と共に、お互いの団体の刺激となったようです。

また広く市民のコンセンサスを得るため、福井経済同友会や福井商工会議所、福井県建築士会、あすの商工福井を語る会らの後援を得て、過去最大の230名の出席を得ることができました。参加者の中にはまちづくりを自主研究している3名の中学生の姿も見られました。

プログラムは、岡崎昌之福井県立大学教授より「まちを輝かせる力」と題する講演を頂いた後、約13分間の21世紀を迎える福井の問題を提起するビデオを上映しました。これは人口や都市構造、産業、行政といった分野毎にデータをグラフや地図に表し、市民に危機感を持ってもらう事を目的に、ftb福井テレビの協力により作成したものです。

その後、福井経済同友会の三田村紘二氏、福井商工会議所議員の三谷政敏氏、福井新聞社の四戸友也氏、福井テレビの土山弥一郎氏の4名によるパネル討議があ



各テーブルでは熱心な意見が交わされた

り、次に、現在各分野で活動している団体、アーバンデザイン研究会、子供NPOセンター、中心市街地活性化推進協議会等からの事例発表がありました。

その後パネル討議と、テーブル討議を繰り返し、計4時間を超す日程となったにも拘わらず、時間を感じさせない程熱心な討議がなされ、会場からは「これからも続けて欲しい」「もっとつっこんだ議論を」との声も多くありましたが、森永会長が来年度の開催を約束し、閉会となりました。



パネラーの意見に耳を傾ける会場



コーディネーターの吉岡隆治氏の進行でディスカッションするパネラー

早速、11月15日には、第2回へ向けての動きがスタートし、来る4月に行う予定での進め方について、参加団体による協議が始まりました。この市民会議が福井市のまちづくりの大きな力になることを期待します。

福井みらい21委員会 副委員長 永井 弘明



アーバンデザイン研究会の事例発表



各テーブルから意見を書いたメモが集約された

## 知らないうちにセクハラになっています (H11. 10月27日)

### 10月例会 青年部太郎君「セクハラ疑惑!？」

10月例会は、10月27日(水)福井商工会議所国際ホールにて、財団法人21世紀職業財団福井事務所の花谷美智子所長と松川貢氏を講師にお迎えして「セクシュアルハラスメントに対する防止策」をテーマとした事業主・管理職向けの講演会を開催しました。



講演の前の「青年部新喜劇」も2回目となり、青年部太郎君がセクハラ疑惑で海外に左遷されてしまうというストーリーも好評?の拍手をいただきました。講演前半は、テキストをもとに松川先生による「セクシャル・ハラスメント

の問題点・原因・現状について、職場におけるセクハラに関する法令、男女雇用機会均等法第21条と指針について、セクハラを起こさないための防止対策などの説明があり(ちょっと眠かった?)、次に花谷先生から、いろいろな場面でのセクハラとなりやすい注意点を、事例をあげてお話いただきました。

今回は、例会ご案内も趣向をかえてイラストなど入れてみました。1人でもたくさんみなさんに、参加して頂きたいという願いを案内状に込めました、みなさんの反応はいかがでしょう? 例会研修委員会 萩村美智子

## 大地震にも遭遇! 肌で感じた台湾事情 (H11. 11月24日)

### 11月例会 青年部太郎君台湾勤務に

11月24日の例会は、我が委員会のテーマ「国際経済人としての人格、教養の向上」を実行すべく、台湾経済について勉強しました。講師は福井県立大学教授、河野快晴氏にお願いしました。先生は大学では経済学を専門分野とされており、特にアジア経済について精通されているということでお招きしました。

裏話を言いますと、例会の方針が決まり、早速大学に連絡を取ったところ先生は現在台湾に行かれておりますとの返事。しかも台湾地震直後で連絡が取れないとのこと。これはなんとしても無事帰国されたら(無責任?)講師をお願いしたいと一念発起し、それから電話攻撃の嵐。しかし、何度連絡しても研究室に来られていない…。よくよ

く聞くと現在大学は夏休み!ご自宅の電話番号を聞きだし、やっと先生にアクセス。事情を説明したところ、例会の講師を快く引き受けていただきました。

台湾渡航歴19回、かの台湾大地震にも遭遇された当日の講義内容は、大変興味深く、手作りのレジュメ資料は永久保存しておきたいほどすばらしいものでした。機会があればもっとお話を聞いてみたいと思ったのは、私だけではないはずで

す。最後におっしゃった先生の一言「地震の時タカオでカラオケしてました」とか。(地震は確か未明に起こったはず…)飾らない近親感のわく先生の、しかも内容の濃いすばらしい講演でした。 例会研修委員会 野村 英生

## コミュニティバスに乗ろう (H11. 12月15日)

### 12月例会 コミュニティバス事業について語ろう

12月例会は、去る12月15日商工会議所国際ホールにて行われた。卓話の講師として福井商工会議所商工振興課の高見和宏主事を迎えて、商工会議所が昨年8~9月に行った「コミュニティバス試行実験事業」について、目的・名称・コース・利用実績などの説明を受けました。



次にそれを基にして、「もっと楽しくしよう」、「もっと活用しよう」、「もっと拡大しよう」、「もっと支援しよう」の4つのテーマ別にテーブルディスカッションを行いました。討論結果の主なもの、

「駐車場を利用したパーク&ライドでバスの利用者を広げる」、「自動車学校、スイミングスクールその他施設のシャトルバスとの連携を図る」、「既存バス路線への乗り換えの案内をする」、「あんま機を車内に設置する」などいろいろな意見が出されました。ちなみに青年部でコミュニティバスに乗った人は、出席者の約1割でした。

今後は、青年部会員もこのコミュニティバスを大いに利用しようということとまとまり、最後に商工会議所商工振興課の浅井光課長の感想をいただいて終了となりました。

副会長 金木 正隆

## 会長サンタに子供たち大喜び! (H11. 12月26日)

### 冬のレクレーション・クリスマス会

去る12月26日(日)青年部の冬のレクレーションである、「クリスマス会」が、商工会議所コンベンションホールにて行われました。

思えば、10月ごろから、皆さんに、楽しんでいただけるような内容で、面白いことが出来ないかと、委員長以下皆で知恵を出し企画しました。当日は、約100名の会員とご家族の参加を頂きました。

16時より開会され、家族紹介、青年部活動をまとめたビデオの上映、全員でのクリスマスソングの合唱、ビンゴゲームと、盛りだくさんの内容で、進められていきました。

次に、今回青年部初めての試み、ハンドベル演奏を、われわれ会員交流委員会で行いました。少ない練習時間でしたので、皆さんに喜んでいただけるような、演奏を出来るか心配でしたが、当日は、今までにない、全員息の合った演奏を披露できたと思っています。

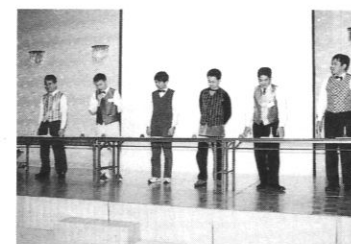
その後、森永会長サンタによる、子供たちへのクリスマスプレゼントが配られ、子供たちもサンタに大喜



びの様子。次に、子供たち全員のプレゼント交換が行われ、楽しい集いは閉会しました。

このクリスマス会を通して、イベント作りの難しさ、家族の大切さを実感できました。

最後になりましたが、参加、ご協力頂いた皆さん、本当にありがとうございました。 会員交流委員会 井関 学



## 角栄譲り「真紀子節」聞いた全国大会 (H11. 11月12~13日)

### 商青連全国大会 新潟大会に参加して

去る11月12・13日の両日、第19回商工会議所青年部全国大会が新潟市にて『アントレプレナーズスピリッツ~今起こそう、経済維新の風』をスローガンに開催されました。

今年は全国各地から3,161名が集い、福井YEGからは12名が参加しました。

初日は、会員総会の後、分科会が新潟県内の4ヶ所に別れて開催され、『商人のこころとアントレプレナーズ』『新潟の酒造りとチームワーク』『SL復活!まちおこしと経済効果』『新潟の海と経済~さらなる国際港をめざして』など雪国新潟の持ち味を生かした大変興味深いものばかりでした。

分科会終了後の大懇親会では「地酒王国」を体感し、各地の会員と交流を図りながら、日本海の食材を堪能し、その後中心街の古町へ移動し、各単会毎に新潟ブルースを口ずさみながら夜のとぼりの中に消えていきました。

二日目の記念式典は、オープニングに佐渡おけさが披露され、YEG宣言の後、商青連会長・日商会頭等

の主催者の挨拶、通産大臣・新潟県知事等来賓の祝辞を頂くなど一連のセレモニーの後、次年度の全国大会開催地(鹿児島大会)を発表して幕を閉じました。

また、記念講演では、衆議院議員の田中真紀子氏をお招きして「アントレプレナーズへの提言」というテーマの講演が開かれました。父角栄氏譲りの園に衣を着せない真紀子節を拝聴し、地元新潟を思う熱い心や、日本を憂う心が、聴衆によく伝わったような気がします。

現在、2002年のワールドカップ新潟大会を目指して、巨大なサッカースタジアムが建設中で、直ぐそばのガスタンクは、なんとサッカーボールの色に塗られていて、新潟県民のワールドカップへの願望が強く感じられました。 会長 森永 克彦



# 会議所の発足経緯など学習

(H12. 1月27日)

## 1月例会 「福井商工会議所の2000年度事業～青年部との連携～」

1月の例会は、恒例の「市橋会頭と語る会」の予定でしたが、会頭の公務のため、急遽変更となりました。そこで福井商工会議所常務理事 田原瑛郎氏が、代役をかってでて下さいまして、演題「福井商工会議所の2000年度事業～青年部との連携～」について卓話をいただきました。

福井商工会議所の発足の経緯から、組織、運営方法などを法律的な説明を加えながら、その中における、青年部の組織上の位置や役割についても、わかり易くご説明いただきました。

福井商工会議所設立時の、福井の経済人の気概や熱意は、今日の我々も大いに受け継ぐべきだと感じました。

青年部の組織上の位置については、商工会議所にある

9部会と同様に、委員会から議会議事を通して会議所の事業を提案できる立場にあること、また、青年部から会議所に対してもっと意見を出すべきであることなど、我々に対するご意見も頂きました。

第2部は、新年最初の例会ということで「21世紀に向けての夢」を、グループに分かれ語りあいました。最初は厳しい顔での話し合いのようでしたが、アルコールがまわるにつれ、すっかり和やかに、例会終了の頃には皆さんすっかり勢いづいて、二次会へとながれてゆきました。

例会研修委員会 堂越 啓司



# IMF体制脱却を目指す韓国を訪ねる

平成12年3月3～5日、3年ぶりの青年部海外研修は、IMF体制から2年余りを経てGDPプラス9%が実現されている韓国で行われた。「自己研鑽」「国際交流」を目的とし、参加者14名は様々なことを学んできた。

### <研修日程>

- ◎3月3日 9:30 名古屋空港発 (JAL983) → 11:45 ソウル、金浦空港着 → 15:00 水原商工会議所 (1983姉妹提携) 表敬訪問 → 世界遺産「華城」見学～禹会頭らと夕食会。
- ◎3月4日 9:00 龍山化学株式会社代表理事副社長 牛嶋 毅 氏を講師に韓国経済復興の要因、歴史、日本との関わりなど韓国事情研修会。→ 13:00 韓国ソウル特別市を市内観光 → 景福宮、国立民族博物館、南大門など。
- ◎3月5日 12:00 金浦空港発 (JAL984) → 13:30 名古屋空港着 → 16:00 帰福



### 【オフィシャル編】

金浦国際空港を降り立ち、特別禁煙バスに乗り込んだ我々の車窓に飛び込んできたのは、人口1,060万人春霞にけむる巨大都市ソウル特別市だ。そびえ立つ超高層ビル群・庶民的な町並み・李朝時代の風情、そんな混沌を眺めながら一路南下30分、表敬訪問先である水原商工会議所へ到着。

我々を迎えていただいたのは、禹鳳濟会長、趙龍伊副会長、金聖根水原企業人協議会会長はじめ、事務局の皆様方。豪華な応接会議室にて、森永会長の挨拶のあと市橋保会頭よりの親書が森永会長から禹会長へ手渡された。禹会長より歓迎の挨拶を頂き、青年部の自己紹介となり、各自は力強くアピール。何かをつかみ取ろうという意志がヒシヒシと伝わってきた。

なごやかに懇談は続き、韓国経済復興の経緯や、先端分野、ベンチャービジネス等話は尽きず、あっという間に時は流れた。

その後、世界文化遺産に選ばれた「華城」を案内していただき、夕食には水原名物の骨付きカルビをご馳走になった。禹会長をはじめとした皆様に心より感謝したい。

2日目は韓国に在住しておられる龍山化学株式会社代表理事副社長 牛嶋 毅 氏(龍山化学株式会社は三井化学株式会社との合弁会社であり氏は本社より派遣されている)による当地の勉強会であった。氏は駐在してまだ間もないとのことであったが、歴史から見た両国の関係に始まり、韓国経済や生活習慣、物造りに対する姿勢に加え、韓国から見た日本像など興味深いお話を聞くことができた。多くの質問にもざっくばらんに答えていただいた

が、非常にわかりやすく、より韓国を身近に感じることができた。

気軽に当地の方と接し、当地の方のお話を聞く、2日間程度の研修ではあったが、その中身は非常に濃いものであった。 田中義乃・藤澤克美

### 【プライベート編】

ソウルの歴史めぐりと韓式エステで生まれ変わる!

3月4日市内観光は、まず1395年に李成桂によって建てられた王宮「景福宮」に到着。東西南北にそれぞれの門が配されており、正殿である勤政殿は釘を1本も使わずに建てられたとか。とても丁寧な装飾で美しい王宮でした。宮内にある国立民族博物館も見学しソウルの歴史を感じることが出来ました。

古い歴史を誇る大市場、南大門では食料品、衣類、雑貨などあらゆるものが揃っており、「安いよ」「見るだけ」などの呼び声が飛び交っていて、韓国人の力強さに圧倒されました。

ショッピングは「紮村さんの希望で…」と気を使って頂き、FENDIのバゲットと騒いでいた私でした。

夕食も済みホテルに戻り、私は本場の韓式エステを初体験しました。汗蒸幕と全身美容指圧で、心と体に磨きをかける。また「化粧のノリが良くなりますよ」との一言に誘われ、うぶ毛取りまで体験してきました。

600年の伝統を誇る民族療法が、新しいアイデアによって生まれ変わった韓式エステは、私にとって最高のお土産になりました。本当に、海外研修旅行に参加できた事を嬉しく思っております。 紮村 美智子

# 日本総グルメ時代

水元 一徳

青年部の皆さん初めまして。私は花堂で業務用の酒販店をしております。

近年の不況の中で、今、我々業界でホットなニュースになっているのは、最近のワインブームです。以前の売上げに比べて、ここ2、3年で250%以上の売上げを伸ばしております。

私も以前からワインには力を注いできたのですが、ここまで多くの方に飲まれることになるとは、予想もしておりませんでした。

その大きな要因には、ここ最近のグルメ番組の多さや雑誌の特集などで、皆さんの飲食に対する考え方や、今まで心の中に潜んでいた探求心が、一気に膨れ上がってきたからだと思っています。

「どうせ食べるならおいしいもの、どうせ飲むのならうまいもの」と、皆さんが料理・飲み物に対して豆評論家となり、飲食の話が以前に比べて話題に上がるようになってきたからだと思いま

す。このことを「日本総グルメ時代がやってきた」といわれる方までいらっしゃいます。

確かに、食べ物・飲み物が話題になるのは、どなたもわかりやすいし、共通する話ですから、最初からいやがる人はいないと思います。また、世界各国いろいろな食材があるわけですから話題が尽きるという心配もありません。

また、「いつ・どこで・誰と・何を食べ・何を飲むか」で、いろいろと違う話題に広がる可能性があるので、とてもいい題目だと思います。

このように、ただ「このお店はうまい・まずい」の評価・評論ではなく、飲食に対して話題を少し集めておかれるのも案外面白いかもしれません。

そのような楽しい会話を入れながら、おいしいものを食べ、人間関係の潤滑油としてお酒を上手に使っていけると、私としてもとてもうれしいと思います。

# リレーコラム

これからは GIS(地図情報システム)の時代です

顧客管理・不動産管理・エリアマーケティング  
不動産物件管理などにどうぞ

## (株)日東調査設計

〒918-8067 福井市飯塚町30-18  
TEL 0776-36-8849 FAX 36-8838

- テレビ・ラジオ・新聞etc広告・企画・制作
- 舞台・テレビの照明・音響・美術プランと制作
- 各種催し物の企画・制作



株式会社 ニュー・フェイス

福井市問屋町3丁目214 TEL 0776(22)6511(代)

## パドス繁盛って何するとど??

- ☆看板の表示替え(リフォーム)
- ☆ラミネート加工
- ☆カッティングシート文字
- ☆アルミフレーム
- ☆各種コンピューター出力
- ☆大型看板 etc
- ☆メニュー制作
- ☆店内POP看板
- ☆ネオンサイン
- ☆データ持ち込みOK!(1枚から承ります)

広告宣伝・サイン・販売促進・店舗用品  
**PADS HANJO**  
パドス繁盛  
福井市幾久町8-12  
☎(0776)27-6770

マリーマリエは、しあわせの旅立ちの日  
素敵なあなたを創造します。  
貸衣装でありながら感性が輝き、個性が生まれ  
世界にただひとつの夢のページェントが生まれます。

マイウエディング マリーマリエ  
**Marry Mariée**  
Marry Mariée group

- |            |              |                  |
|------------|--------------|------------------|
| マリーマリエ     | 福井市西谷1-1220  | TEL 0776-33-2272 |
| 福井高砂殿 shop | 福井市問屋1-208   | TEL 0776-23-2205 |
| 武生高砂殿 shop | 武生市国高2-44-1  | TEL 0778-23-6050 |
| 商工会館バレット武生 | 武生市塚町        | TEL 0778-23-3302 |
| 日之出衣装店     | 福井市中央1-11-10 | TEL 0776-23-2205 |



株式会社ベンチャーソフト 代表取締役社長

大 戸 天 童 さん  
おお と てん どう

## COVER INTERVIEW

# 原点はマーケティング

### プロフィール

福井市出身。大学在学中に東京原宿、渋谷で路上パフォーマンスによりマーケティングリサーチを行う。大手企業からもマーケティングの依頼を受ける。  
◆1982年パフォーマンス集団「一世風靡」を設立し、「一世風靡セピア」をプロデュース。

◆1990年(株)バイオニアロックイットレコード設立。代表取締役社長。  
◆1999年(株)レイジマツモト・アソシエイツの創立者、CEOとして代表取締役就任。松本零士作品の総合プロデュース担当。

### ■福井での思い出は

私の生まれは福井市の順化2丁目で、今も実家がありますが、福井へ帰るたびに、とにかくホッとした気持ちになります。古里が福井であってほんとに良かったなど、帰る度にそう思っています。

思い出は数々ありますが、福井での一番の思い出といいますと「朝倉遺跡」での「一世風靡」のイベントです。あぁいった文化財の前でのイベントをしたのは初めてでしたが、ライティングしたらもしかして変色するんじゃないか、などと様々な事を考えて行ったことが、非常に思い出深いですね。もう一つは、昨年ヨサコイのイベント(福井テレビ主催)で音楽を担当させていただいたことです。

「パフォーマンス」と言う言葉は、筑紫哲也さんと一緒につくった言葉ですが、こんなに流行するとは思っていませんでした。このパフォーマンスというムーブメントがやや形を変えながら今も続いていて、福井でこのようなイベントに参加できたことについて非常にうれしく思っています。

私には一つのテーマがあります。「一世風靡」も「ヤマト」もそうですが、日本古来のものを大事にしながら、西洋と東洋をミックスさせた作品を作り上げたいと常々思っています。日本古来のものをベースにして海外に日本の良さを売りたい。この思いは、やはり福井に生まれ育ったからこそかもしれません。

### ■ストリートとのかかわりについてお聞かせ下さい。

私は13年間、毎週日曜日に歩行者天国に通いました。正直いって路上が何よりも好きだったというわけではありません。始末書も数限りなく書いたものですが、私にとって、あの路上はマーケティングの場であり、実験場であったということです。

あの原宿歩行者天国には平均6万人が毎週来ています。この中でアンケートを取ったのです、毎週2,000件、年間55万ケースのデータを集積しました。この大量の生のデータに接するということに、非常な魅力があったわけです。若い人たちの感覚をリアルタイムで知れた。その時代に流行したものに、なぜ・どんな反応をしたかということが生の声で帰ってくる。これは非常に面白いことであり、快感でした。

劇場などで通常のアンケートをとっても全く面白みはない。そこにはエネルギーも持続性も、なにより斬新さがない。だからこそ路上でのマーケティングにこだわったわけ

で、これがあったからこそ、今の私があるのだと思います。

### ■現在の活動についてお聞かせ下さい

ご存じのとおり今は、「宇宙戦艦ヤマト」にかかっています。「ヤマト」のホームページへのアクセスはいまだに連日、40万件もあります。昨年発売された「宇宙戦艦ヤマト」のゲームは26万も売れました。これだけ人気があるわけですね。ちなみにアニメーション市場は15兆円マーケットで音楽市場は6千億円程度です。ただ、私は単なる映像の配給時代はもう終わったと思っています。「ヤマト」はデジタルアニメーションですが、例えば「ヤマト」の艦長は、今何を考えているか、機関室はどうなのか、作戦司令部はどう考えるか、自分が「ヤマト」の乗組員の一人になって、中が見えるような、すなわち自分が想像の中に入っていけるような、今までとは全く違うものを作りたいと考えています。

この「ヤマト」についても、マーケティングから重要視して入っていったのです。

### ■今後の活動について

今の会社は、ARスタジオを目指して立ち上げました。ARとは、アニメーションによる仮想空間技術といいましょうか、自分の部屋をアニメーションで「ヤマト」の艦内にするとか、安室奈美恵と肩を組んで一緒に歌うことも可能です。同じように老人介護の部屋を昔の写真1枚で小学校時代の部屋にすることも簡単に出来るわけです。今はGoogleを使った3次元表現ですが、近い将来に必ずできます。

単なるアニメーションの枠に収まらず、これには大手ゼネコンも非常に興味を持っています。ビル建設に伴う景観・日照・風量など様々な課題を、よりリアリティのある映像でシミュレーションできるわけで、これらの市場規模は想像できないくらいです。

私のビジネスの第一段は「ヤマト」などのソフトコンテンツ、第2段は世界戦略、そして第3段はARと考えています。ある意味で第一段階は既に終わっています。次は第2段階。事業というのはこういったように次から次へと続けないとダメなのではないかと考えています。

\* \* \* \* \*

マーケティングを重要視し、生の声をいかに活かすか。氏の事業成功の秘訣は本当に基本的なことでした。いつの日か、日本初のARスタジオが福井にできることを待ち望み、氏のさらなるご活躍に期待します。